



夏季手当、第1回、第2回「交渉」

会社の発展なくして労働条件の向上なし

労使共通の認識は、会社の発展こそが社員に対する利益還元之源であり、社員や家族の幸せにつながる前提である。経営環境の変化や経営課題への認識の一致を図り、お互いの利益の達成に向けて協力することの大切さを確認した。

イーストユニオンは、本年5月14日(申8号)で申し入れていた、夏季手当支払いの要求について、第1回交渉(5月31日)、第2回交渉(6月7日)を行った。



2018年度、夏季手当要求についての申し入れ

1. 基準内賃金の3.2ヶ月分を6月29日までに支払うこと。
2. 成績率の適用については公正厳格に行うとともに、人材育成に有効に活用すること。
3. 好調な企業業績を踏まえ、安全・サービスに更なる投資を行うこと。

第1回交渉 組合側から要求の根拠を説明

当社グループの2017年度期末決算において連結累計期間の営業収益は前年同期比2.4%増の2兆9,501億円となり、6期連続の増収かつ過去最高。親会社株主に帰属する純利益は2,889億円の過去最高となった。少子高齢化、生産年齢人口のピークアウト、東京圏への人口集中、地方経済の活力減退など環境の変化、鉄道のシステムチェンジ、急速な世代交代など様々な課題に直面している。「安全・安定輸送のレベルアップ」「収益力向上への挑戦」に向け当社グループ社員が一丸となって取組まなければならない。『ヒトを起点とした新たな価値・サービスの創出』に挑戦している社員の期待に応えるべく組合として業績の公正な配分を強く訴え2018年度、夏季手当について真摯な議論、誠意ある回答を強く要請した。

第2回交渉 会社側から経営状況や取り巻く経済情勢の説明

会社の発展が社員への利益還元之源である。安定的な経営を継続していきたい。5期連続の賃金改善。各種手当の増額。エルダー社員の賃金改善。期末手当は、直近の業績を反映させるものとの考えもあるが、安定的な賃金の支給も大切である。弊社の経営を安定させるためにも生産性の向上。諸施策に対しては、時間軸を意識した取り組みや社員が気兼ねなく自己啓発に取り組める職場風土や職場秩序の維持を通じて安心して働ける職場環境が求められている。その為にも、全社員の協力をお願いする。会社の利益は、全社員の頑張りの賜であり、感謝している。

人財への投資は、安全安定輸送の礎である。JR東日本グループ全体の底上げが安全安定輸送やサービス向上の強化に繋がる。会社の体力は十二分にある。組合は満額支給とグループ全体の底上げを強く訴えた。